

鳥取県立図書館からの報告

(対象期間：令和2年12月～令和3年11月)

(報告者) 鳥取県立図書館

郷土資料課 藤原拓也

1. 資料展示

(1) 特別資料展示 (特別資料展示室における展示)

	期間	タイトル	入場者
令和2年度	10/1～11/11	特別資料展 県民に役立ち、地域に貢献する図書館 —県立図書館30年のあゆみ—	443人
	2/5～3/10	郷土文教の源流 遠藤董—若き日のすがた—	396人
令和3年度	8/1～9/12	初！始！発！鳥取県のはじまり展 (とっとり県民の日関連展示) (会期中に県人初のオリンピック金メダリストが誕生したため特別にコーナーを設置して開催した。)	404人

(2) ミニ展示・企画展示 (郷土資料室及び一般図書室の展示スペースを利用した展示)

	期間	タイトル
令和2年度	11/12～	CD利用促進展示 (1ヶ月ごとにテーマを決定し、関連図書とともに展示)
	12/11～1/13	令和2年度鳥取県文化功労賞
	3/21～4/29	楽器分解ミュージアム (県立高校教諭主催展に協力)
	1/15～3/10	遠藤董と郷土文教
令和3年度	4/9～	とっとりデジタルコレクションPR展示
	4/9～4/29	「鳥取大火」がもたらしたもの
	4/9～4/29	Hello!New Life 「ととりのまちでくらす」
	5/14～6/29	ワールドマスターズゲームスまであと1年
	6/11～7/8	山開きと山の文学
	6/11～7/30	夏到来！県人の野球漫画
	8/2～8/30	小さな写真展～鳥取の海と山を楽しもう～ (利用者(図書館関係)主催展に協力)
	11/12～12/29	今年のプロスポーツはとっとりゆかりの選手が大活躍

(3) 他館を会場にした資料展

期間中実績なし

2. 講演会・行事

(1) 郷土文化講演会（開催）

特別資料展及び企画展示に関連して「トークセッション 遠藤董のすがたを求めて」を開催。

講師及び演目

北尾泰志氏（元中学校教諭、元県立図書館副館長、鳥取地域史研究会員）

「女子教育に尽くした遠藤」

竹氏倫子氏（元鳥取県立博物館主任学芸員、美術史研究者）

「遠藤董と美術」

中田裕子氏（元鳥取県立鳥取豊学校教諭）

「障がい者教育と遠藤董」

なお、本年度は2月23日に鳥取県立博物館講堂にて「地域史研究と地域の活性化」（講師：坂本敬司 元鳥取県立博物館学芸員）を開催予定

(2) 鳥取文学講座（開催） ※新規

ア 「レッツ短歌」 講師：池本一郎氏（歌人）

鳥取県で活躍する歌人を迎え初心者でも楽しみながら短歌制作に触れることができる講座を開催した。

イ 「めくるめく本の世界」 講師：村瀬謙介氏（個人出版社「小取舍」代表）

出版不況から生まれた小規模出版についての解説、鳥取で個人出版社を立ち上げた講師の人生と本の関わり、デザインの側面から見た本、図書館の活用などについて紹介していただいた。

(3) 鳥取県に伝わる昔話を聞く会

日 時：毎月第4土曜日 午後2時から30分程度

語り手：中嶋須美子氏

3. 研修・講座

(1) 新任図書館員を対象とした実務研修会

県内図書館の新任職員等を対象にした研修会。「本の正しい扱い方と郷土資料の活用法」を講義。

(2) 図書館職員向け図書館業務専門講座

県立図書館及び市町村立図書館職員に向けてとっとりデジタルコレクションの活用方法について講義を行った。

(3) 鳥取県ジュニア司書養成講座

小・中学生を対象とした「ジュニア司書」養成講座。郷土資料についての講義や郷土資料室での実習を行った。

夏休み期間中に全3回で行う予定であったが、2回目終了後に感染が拡大したため最終回を延期し、11月14日に最終回の日程を終了した。

(4) 行政職員向け研修「図書館に学ぶ！1ランク上の情報収集講座」（中止）

鳥取県人材開発センターとの共催企画。県及び県内自治体職員の研修講座として「図書館を活用した情報収集講座」を開催。図書やインターネットを活用した情報収集、郷土資料の活用法についての講義を行う予定でした。平成18年度より継続開催。

(5) 利用者向け講座（とっとりデジタルコレクション関連）**ア 「とっとりデジタルコレクション」公開記念シンポジウム****地域の情報をデジタルで！ ～「とっとりデジタルコレクション」の可能性と活用法～**

令和3年3月1日に、県立公文書館、県立博物館、県立埋蔵文化財センターとともに、デジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」の公開を開始したことに合わせ、デジタルアーカイブシステムの可能性や、デジタル化した資料がどのように活用できるか、講演、ディスカッションを通して考察した。

イ とっとりデジタルコレクション活用講座をYouTubeで配信

講師：伊藤康氏（鳥取県立公文書館専門員）

とっとり県民の日関連事業として県民向けにとっとりデジタルコレクションの利用方法と活用できる資料を紹介する動画を公開した。

※活用講座については、図書館職員向け、学校図書館司書向けも開催

4. 外部との連携

本庁知事部局の進める政策・イベント関連など、互恵関係のある展示を開催しているほか、利用者主催の展示の開催を行った。

5. 統計および資料保存の取り組み等**(1) 統計****利用状況（郷土資料）**

	貸出冊数（一日あたり）	レファレンス
令和2年度	6,284 冊 (19.3 冊)	3,175 件
令和元年度	6,846 冊 (24.6 冊)	3,853 件
平成30年度	7,083 冊 (22.0 冊)	4,139 件

蔵書冊数（郷土資料）

令和2年度	149,415 冊 (全蔵書の 12.3%)
令和元年度	146,643 冊 (全蔵書の 12.4%)
平成30年度	144,008 冊 (全蔵書の 12.4%)

※令和2年度 2,772 冊増加

(購入：428 冊 寄贈：2,108 冊 生産・その他：253 冊 除籍：17 冊)

(2) 郷土関係情報の収集およびデータ入力**① 図書、逐次刊行物等の収集****② 郷土関係情報の入力・発信**

- ・「鳥取県郷土人物文献データベース」の新規文献情報の入力
- ・図書、雑誌、研究報告書等の目次・論文名の入力
- ・ホームページの更新（展示・行事の広報、コンテンツの更新）

③ 郷土関係情報の収集

- ・新聞記事のスクラップ（地元紙・全国紙より鳥取県に関する記事をスクラップ）

(3) 資料のデジタル化

- ・29年度に策定した「総合的なデジタル化計画」に基づき、平成30年度から令和4年度の5カ年計画で、希少性の高い貴重資料や劣化の進行が著しい資料などのデジタル化を行う。初年度以降デジタル

化を行った772点（無画像データをのぞく）のデジタルコンテンツを公開している。今後も継続してデジタル化資料を増やす予定である。

- 基本的には五カ年計画に則りデジタル化資料を選定しているが本年度は鳥取大学から移管された「鳥取県郷土調査」について、優先的にデジタル化作業を行っている。
- 「とっとりデジタルコレクション」の公開及びジャパンサーチとの連携を行っている。

6. 新型コロナウイルスに関する対応

- 県立図書館全体として、ニューノーマルを提供できるよう特設コーナー「新型コロナウイルス以降の新しい『暮らし方』・『働き方』を支える情報棚」と、医療健康分野で「新型コロナウイルスについて知る」の展示を行っているが、郷土資料課でも、より地域に密着した情報として県内自治体の支援策だけでなく、商工会などの民間団体・ボランティア活動を行う任意団体・弁護士会の情報を集め提供している。
- 県独自基準の警報発令をもとに、イベント催行やDVD視聴およびインターネット端末などの利用方法に制限を設けたが、館全体の臨時休館措置や入館制限は行わなかった。